

領域	評価の観点	評価項目	担当分掌	実践目標と成果	評価						
					1	2	3	4	平均		
学校運営	開かれた学校づくり	PTA・同窓会との連携	総務	実践目標	PTA・同窓会との意見交換を行ない、学校運営や行事に活かしていく。	2.1%	6.4%	63.8%	27.7%	3.17	
				成果	PTA広報誌「ゆずりば」の発行、学校行事へのPTAの参加を通じて、互いの連携を強めることができた。特に毎週末の「西高メール」を通じて保護者へも直近の予定を伝えることができた。同窓会と同様に連携を密にすることができた。						
		学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	管理職	実践目標	学校評議員会において、各委員から出された意見を吟味し、学校運営に反映させる。	4.3%	12.8%	63.8%	19.1%	2.98	
				成果	評議員の全職員に周知するとともに、広報、生徒会活動等に反映させた。						
		地域への貢献活動	総務他	実践目標	高校生ふるさと貢献活動事業を活用し、学校周辺の美化活動や近隣の幼稚園、高齢者養護施設と交流を行う。	0.0%	10.6%	59.6%	29.8%	3.19	
	成果			第1学年全員とボランティア生徒とで、1・2学期に学校周辺の美化を行なった。							
	家庭や地域への情報発信	広報	実践目標	広報委員会と各部が連携して、より本校の魅力を伝えられる広報の在り方を工夫する。	2.1%	6.4%	44.7%	46.8%	3.36		
			成果	総務部と連携し、オープンハイスクールと国際教養コース説明会を同日に実施。時間を調整することで効果的に開催することが出来た。							
				特色事業推進	実践目標	インスパイア・ハイスクール事業を活用し、本校の特色である国際理解教育を中心とした学習発表会を実施する。	2.1%	23.4%	61.7%	12.8%	2.85
					成果	校外発表会であるインスパイア・ハイスクール発表会は、今年度は中止となった。代わりに校内発表会の生徒発表会で展示も行うなどの内容の見直しを行った。					
	学校の特色化	将来に向けた本校の在り方の検討	将来構想委員会	実践目標	5年後、10年後を見据えた本校の在り方を考え、その方向性を検討する。	10.6%	27.7%	44.7%	17.0%	2.68	
				成果	本校の目指す方向を考慮し、オープンハイスクールのあり方、よりよいカリキュラムについてなど提案した。						
	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	生徒指導	実践目標	基本的な生活習慣や態度を身につけさせるため、全教職員の一致した指導体制を確立する。	10.6%	10.6%	63.8%	14.9%	2.83	
				成果	朝の校門指導や放課後の下校指導を通して、実態の把握に努め、指導部会を通じて情報の共有を行った。						
		いじめの防止	生徒指導	実践目標	いじめ防止のための基本的方針を見直し、いじめの予防、早期発見、適切な対応をより一層充実させる。	0.0%	4.3%	65.2%	30.4%	3.26	
				成果	各学期ごとのいじめアンケートを封筒に入れ家庭に持ち帰らせ記入させる形式にした。生徒の実態把握を全職員と丁寧に行った。						
		生徒の内面理解	保健	実践目標	年間27回の教育相談を有効に活用するとともに各学年と連携を密にし、生徒の内面理解に努め、学校生活に適切に対応できるようにする。	0.0%	2.1%	55.3%	42.6%	3.40	
				成果	教育相談の総括及びカウンセリングについての演習を含む研修を実施し、生徒理解・生徒支援について学んだ。						
	生徒の自主・自律の精神を育む指導の工夫	生徒指導	実践目標	生徒による主体的な活動を積極的に支援し、生徒会活動を活性化させる。	4.3%	8.5%	68.1%	19.1%	3.02		
			成果	定例会を充実するなど、生徒会に自主的に活動させ、日々の活動を文化祭などの行事へ成功に導いた。							
			実践目標	職員の共通理解のもと、部活動に関する様々な規程の徹底を図るとともに内容の見直しを行い、学習と部活動の両立を図る。	10.6%	14.9%	66.0%	8.5%	2.72		
			成果	規程見直しなどを継続的に行うなどして、生徒が学習と部活動の両立推進を図るように検討した。							
進路指導	進路行事の充実	進路	実践目標	生徒向け国公立大学説明会の拡充や国公立大学バスツアー、保護者向け大学説明会、インターンシップなど進路行事を充実させ、進路に対する意欲を高める。	0.0%	6.4%	55.3%	38.3%	3.32		
	成果		2・3年生対象の国公立大説明会を4月に、全学年の保護者を対象とした香川大の説明会を5月に校内で実施することができ、2年生を対象とした国公立大学バスツアーを企画実現できた。								
	補習の充実	進路	実践目標	早期補習の定着をはかるための条件整備を行う。また、冬休み・春休みの補習を組織的かつ体系的に実施する。	0.0%	4.3%	61.7%	34.0%	3.30		
	成果		西高伝統の朝補習を充実させるため、先生方へ呼びかけ、3学年間の調整に力を入れた。冬期補習を学校行事として継続実施できた。								
教職員の資質向上	計画性を持った研修の実施	教務	実践目標	進路・国際・保健・人権等、様々な課題について校内研修を計画的に実施する。	0.0%	8.5%	72.3%	19.1%	3.11		
			成果	研修会を実施することができたが、研修会の時間確保に苦労している。							
危機管理体制の整備	防災訓練の充実	総務	実践目標	本校の実態に沿ってマニュアルを見直し、実効性のある防災訓練を定期的に行う。	2.1%	8.5%	57.4%	31.9%	3.19		
			成果	年2回の防災訓練のうち、1学期末にはホームルーム下で地震を想定して、各部署の人数の点検や活動内容の確認を行った。2学期末はJアラート発報時も想定して訓練を行った。							
	生徒に対する防犯教育の充実	生徒指導	実践目標	インターネットや携帯電話の正しい使い方を学ぶ。また、薬物乱用に関する啓蒙活動を行う。	0.0%	10.6%	63.8%	25.5%	3.15		
			成果	情報モラル講演会、薬物乱用防止講演会を通して、啓蒙活動ができた。							
業務の効率化	校務支援システムの導入	教務	実践目標	県立学校校務支援システムを円滑に導入する。	0.0%	29.8%	53.2%	17.0%	2.87		
			成果	全学年導入をおこなったが、これまでと異なる考え方で使い方もあり、使用方法に苦労をしている。							
	会議の効率化	管理職	実践目標	資料のペーパーレス化やグループウェアの掲示板による連絡等の工夫により、職務の効率化、省資源化に取り組む。	0.0%	12.8%	59.6%	27.7%	3.15		
			成果	PCを用いた職員会議を試行している。職員朝礼でグループウェアによる連絡は定着した。							

領域	評価の観点	評価項目	担当分掌	実践目標と成果	評価							
					1	2	3	4	平均			
教育課程・学習指導	自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	学力向上	実践目標	「基礎的・基本的な知識の基盤に立った、思考力・判断力・表現力などの能力」を向上させるための授業の在り方を研究し、実践していく。	6.4%	6.4%	59.6%	27.7%	3.09		
				成果	班別の授業公開、研究協議会、まための職員研修会を実施し、授業改善の方法や方向性について共通理解を得られた。							
	基礎・基本の定着	主体的・対話的で深い学びに向けて	教務・将来構想	学力向上	実践目標	次期学習指導要領や大学入学共通テスト(仮称)などの情報収集を行う。	6.4%	40.4%	46.8%	6.4%	2.53	
					成果	文科省発表の資料や参加した民間団体の研修会資料を閲覧できるようにし、進路部に依頼し新テストの研修会を実施した。						
	基礎・基本の定着	家庭学習の充実	学力向上	学力向上	実践目標	考査の結果や学習記録の振り返りを通じて、生徒の学習意欲を向上させ、家庭学習に主体的に取り組ませる。	6.4%	29.8%	57.4%	6.4%	2.64	
					成果	定期考査ごとに学習の自己管理に取り組ませた。						
	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握	進路	進路	実践目標	西高学習プランを進路通信等を通じて生徒に提示し、学習意欲を喚起する。模擬試験の結果分析資料を充実させ、学年・教科への喚起を促す。	2.2%	15.2%	65.2%	17.4%	2.98	
					成果	PTAの協力の下、赤本やHR配布冊子をに充実させることができた。訪れやすい、使いやすい、進路室を心がけ、昼休み・放課後・休日の自習室としての利用が増えた。						
	個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	教務	教務	実践目標	評価方法について学校全体で検討し、観点別評価など多様な評価資料の活用を研究する。	2.1%	19.1%	74.5%	4.3%	2.81	
					成果	年間指導計画に、観点別評価についての項目を追加して、観点別評価についての意識づけを行うことができた。						
	個に応じた学習指導の徹底	指導形態の工夫	教務	教務	実践目標	少人数クラス・習熟度別クラスなどの実効性のある指導方法を工夫する。	6.4%	10.6%	66.0%	17.0%	2.94	
					成果	習熟度別クラスの実施により、理解度に応じた授業を実施することができた。						
	総合的な学習の時間	創意工夫を生かした実践の展開	総合	総合	実践目標	スピーチ、レポート、学年全体での発表等を通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。	0.0%	19.1%	55.3%	25.5%	3.06	
					成果	修学旅行の変更による日程の変更等があったが、各学年とも計画通りの内容を実施でき、コミュニケーション能力を向上させることができた。						
特別活動	学校行事の精選と行事内容の充実	総務	総務	実践目標	職員の意見を集約して月間行事を検討する。学校行事検討委員会を開き、海外修学(研修)旅行等の検討や行事内容の充実を図る。	0.0%	21.3%	59.6%	19.1%	2.98		
				成果	行事内容や実施時期について、学年や専門部と協議し、年間行事計画に基づきながら各月の行事を円滑に行うことができた。海外事情の急変に対応して、グアム修学旅行は関東圏修学旅行へと変更した。							
芸術文化活動	読書活動の活性化	図書	図書	実践目標	書籍、雑誌の充実を図るとともに「図書室たより」等によって、新刊本の紹介などの情報提供を定期的に行い、読書への関心を高める。	0.0%	14.9%	72.3%	12.8%	2.98		
				成果	調べ学習に必要な図書の実充を図ることができた。定期購読の雑誌を実態に合わせ変更した。西高祭で「ビプリオ・バトル」や図書の展示等を通じて読書への興味・関心を喚起した。							
芸術文化活動	教育活動全体における計画的な芸術文化活動の実施	図書	図書	実践目標	レベルの高い芸術鑑賞を行ない、生徒の芸術的な感性を高める。	0.0%	8.5%	76.6%	14.9%	3.06		
				成果	本年度はシェイクスピアの「十二夜」を鑑賞した。90%の生徒がアンケートに「よかった」と答えており、国際教育の視点と併せて、意義ある鑑賞ができた。							
課題教育	人権教育	確かな人権意識の育成	人権	実践目標	人権HRの具体的な内容について、各学年との連携を図り、3年間の授業を系統立てて内容の充実を図る。	0.0%	8.5%	68.1%	23.4%	3.15		
				成果	職員研修会(性的マイノリティ)を実施し、各学年と連携を図り各学年生徒の理解度に応じた人権HRを実施することができた。また、2年生に対して性的マイノリティの講演を実施した結果、文化祭のシナリオづくりにおいて軽薄な性的差別表現的な内容が一掃された。また、デートDVに関する講演会も生徒にとって意義あるものとなった。							
	国際理解教育	留学事業の推進	特色事業推進	特色事業推進	実践目標	MGHS、COLIBLIを軸に、国際交流プログラムを充実・発展させる。	2.2%	13.0%	58.7%	26.1%	3.09	
					成果	国際交流プログラムを継続し、生徒の異文化理解の機会を設けることができた。また、新たに官民協働海外留学支援制度も利用した。						
		国際的な視野の育成	特色事業推進	特色事業推進	特色事業推進	実践目標	国際理解に関する講演会、LAC講座等を通じて、生徒の国際理解を深めさせる。	0.0%	8.7%	67.4%	23.9%	3.15
						成果	生徒全員に対しては「グローバル語り部」講演会を、国際教養コースの生徒は、さらに「LAC講座」を通じて、生徒の国際理解を深めることができた。					
国際的な視野の育成	地域の英語教育への貢献	特色事業推進	特色事業推進	実践目標	英語教育における小中高の連携を図り、地域連携重点校としての役割を果たす。	2.2%	2.2%	57.8%	37.8%	3.31		
				成果	小学校への出前授業を始め、小高の連携を継続し、地域重点校として相互理解を深める努力をした。							

全体の平均

3.04